



目抜き通りを埋め尽くす踊り手と観客。踊り手の華麗な演舞に観客から声援と拍手が送られる



各厄年連、町内会、企業、幼児、小中学生など約20チームが個性ある演舞やよさこい、太鼓などを披露

前沢の街中は桜が多く、例年より一週間早いといわれる染井吉野が満開で、まつりに華を添える



白鳥館遺跡から望む前沢をはぐくんだ北上川。前沢市街地の上方には1000m以上の山が集まる焼石連峰が見える



悠久の昔から栄えるマチ 奥州前沢の春

今年の奥州前沢春まつりの主役！
前沢42歳厄年連「桜未申友会（おうみしんゆうかい）」約100人のエネルギッシュな演舞

昭和58年6月18日、本町は岩手県の旧前沢町（現奥州市）と姉妹都市の締結をしました。平成18年2月20日、2市2町1村が合併し奥州市が誕生し、前沢町は奥州市前沢区となりました。合併後も交流は途切れることなく、少年団や学校をはじめ、さまざまな団体が相互に行き来し約四半世紀の間、交流という年輪を重ね友好の木は成長しています。交流の中には、両マチを代表するイベントの訪問があり、奥州市（前沢区）からは「田舎まつり」に、また、厚真町からは隔年で「奥州前沢春まつり」と「前沢牛まつり」を訪れています。このページでは、4月19日、20の両日、春を告げるまつりとして伝統がある「奥州前沢春まつり」や世界遺産登録予定の「白鳥館遺跡」などを話題に姉妹都市を紹介します。

岩手県奥州市（前沢区）と姉妹都市となった経緯

昔小牧市柏原地区に前沢から開拓団が入っていた縁で、昭和25年から38年にかけて10人の花嫁さんが厚真町に嫁いできました。昭和38年から毎年嫁いだお嫁さんとご主人とが出席し懇親会が開かれていました。昭和55年に開かれた「前沢町の思い出を語る会」に当時の谷内町長が招待され、その席上でもっと町ぐるみの交流をという希望が出され、幾度かの交流を積み重ね姉妹都市締結の話が持ち上がります。そして、昭和58年6月18日、「田舎まつり」のときに本町で調印式が行われ、姉妹としての第一歩を歩み出しました。

前沢牛で有名なマチであり東北地方有数の米どころ

古くから農耕が盛んであった前沢。交通の要所であることから、宿場町、城下町、商業の町として栄えていました。前沢といえは肉質日本一の折り紙が付いている前沢牛。世界で唯一の「牛の博物館」があり、毎年6月に行われる「前沢牛まつり」には県内外から約3万人が集い、世界の名牛に舌鼓を打っています。前沢牛の飼育に欠かすことができないものが、主な飼料として「ひとめぼれ」の稲わら。前沢は銘柄米「ひとめぼれ」を生産している東北地方有数の米どころでもあります。

岩手県の県南に位置する前沢区の面積は約73㎢、人口は約1万5千人。奥州市となり、それぞれ約1,000㎢、約13万人規模のマチに。また、奥州市は副都府を目指すマチなのです。

牛まつりと並ぶ一大イベント「奥州前沢春まつり」

「奥州前沢春まつり」は、春を告げる祭りとして前沢の人たちに親しまれてきました。

この祭りは、市街地で行われ、各世代の厄年の皆さん（厄年連）やよさこい団体が息の合ったエネルギーギッシュな踊りを披露するほかに、町内会の出し物、子どもみこし、一輪車、太鼓など多彩な団体が出演し祭りを盛り上げます。

沿道には二重三重の人垣ができるほどたくさんのお客が詰めかけ、踊り手に惜しみない拍手と声援が

送られる、マチが一体となったお祭りです。

この祭りの特徴的なことは、厄年連の存在。毎年、数え年で42歳の厄年に当たる方々が春まつりの主役であり、運営などをつかさどっています。今年（令和42年（未）・43年（申））に生まれた同級生の団体「桜未申友会（おうみしんゆうかい）」の出番。約100人のぼる同級生たちが、演出衣装部、山車部、総務部、財務部などに分かれ、祭りを成功させ前沢を盛り上げるため、数年前から会を立ち上げ、一丸となって準備を進めてきました。

今年（令和42年（未）・43年（申））に生まれた同級生の団体「桜未申友会（おうみしんゆうかい）」の出番。約100人のぼる同級生たちが、演出衣装部、山車部、総務部、財務部などに分かれ、祭りを成功させ前沢を盛り上げるため、数年前から会を立ち上げ、一丸となって準備を進めてきました。

平安時代から栄えた地域「世界遺産」として登録へ

前沢の近くには、国宝中尊寺金色堂や特別名勝毛越寺庭園など「平泉の文化遺産」があり、平成13年に世界遺産の暫定リストに登載

されています。

構成資産の中には、前沢区白鳥地区の「白鳥館遺跡（しらとりたていせき）」もあり、世界遺産の中心となる地域に所在しています。この遺跡は、北上川に周囲を180度以上囲まれた天然の城塞で丘陵上にあります。その一帯は、平安時代の末期の豪族であった安倍頼時の八男、白鳥八郎則任の城といわれています。

発掘調査で、10世紀から16世紀までの遺構や遺物が出土し、約600年の長期にわたり利用されていたことが判明しました。白鳥館遺跡は、古から陸上交通の要衝であった白鳥地区において、水上交通の重要な拠点として、水上交通の重要な拠点として、白鳥館遺跡は、古から陸上交通の要衝であった白鳥地区において、水上交通の重要な拠点として、白鳥館遺跡は、古から陸上交通の要衝であった白鳥地区において、水上交通の重要な拠点として、

も利用されたところと考えられ、平泉文化を支えた北上川交通のあ

り方を考えるうえで重要な遺跡だといわれています。世界遺産としての登録は、ユネスコ「世界遺産委員会」で審議され登録決定は今年7月の予定ということで、世界遺産になることは奥州市（前沢区）の市民だけでなく、まさに歴史と伝統を誇る岩手県民の願いなのです。

今後伸びがよい本町のよきお姉さんで

長い歴史と風土の中で培われた文化が数多くある奥州市（前沢区）。いわば奥州市（前沢区）は、年上のお姉さんで、厚真町は妹。姉の引き出しの数は多く、学ぶべきことはたくさんあります。今後ともよき姉妹であるよう、友好を深めていきたい間柄です。